

東京教区時報

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1222号
2011年9月25日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 英 久子

◇9月の代禱・信施奉献先

▽わかちあい募金のため▽山谷兄弟の家伝道所まりや食堂の働きのため▽聖公会野宿者支援活動・渋谷の働きのため▽心臓病児保育活動のため

▽下町G東日本大震災報告と懇親会

25日(本日)14時半、月島聖公会。報告⇒榎原民佳ほか。照会№03(3251) 4981・神田キリスト教会。

▽そっだったのか! 「貧困」

貧困問題を考えるプロジェクト2011年第2回セミナー。「わたしたちのとなりにある貧困」講師⇒森川清(弁護士)。「現場からの声」「子どもの教育と貧困」「日本に暮らす外国人と貧困」。10月1日(土)13時半、目白聖公会。無料。照会⇒

教区事務所

「いっしょに歩こう!」

被災者支援チャリティイベント

▽月島聖公会コンサート

9月9日(日)15時、同教会。出演⇒神尾昇指揮の4合唱団。無料(会場献金)。照会№03(6225) 0475・同教会。

◆とこしえの平安

8月23日 石神耕太郎(93)

聖フランシス聖エリザベス 8月26日 中村 ひろ(99)
聖ミカエル 8月28日 水野登志子(78)
池袋 8月28日 吉川 献(62)
*2面(今、この教会では...)に登場する保育園は「釜石神愛幼児学園」で、高橋仁園長からの「寄稿(広報委員会)

今週・来週の予定

9月25日~10月8日

25(日)	聖霊降臨後第15主日 主教巡回 浅草聖ヨハネ教会 城南G・山手G・下町G・多摩G・環状G各教会協議会 人権委員会
26(月)	ハラスメント防止委員会
27(火)	浅草会合
29(木)	東関東協議会(浦安)
30(金)	10月
1(日)	聖霊降臨後第16主日 主教巡回 神田キリスト教会 エルサレム教区協働委員会 分担金制度特別委員会 主巡回 聖フランシス堂 聖エリザベス教区協働委員会 貧困問題P準備会 浅草会合

《掲載記事転用の場合は事前連絡のこと》

20年前の秋のはじめ、10月に妻と結婚しました。結婚祝いの贈り物の中に大学の恩師からのものがありました。それは筆文字で「愛する」ということとお互いに見つめ合うことではなく、同じ所を一緒に眺めることだ」という文でした、すなわち愛するということはお互いに見つめ合っているという感覚を育て合うことも重要だ

が究極の目的は目的を一緒にするということではないでしょうか。

教会はイエスキリストという同じ目標を持って、出会って一緒に生きて行く共同体です、私たちはすでにイエスキリストを信じて生きて行くという目標が決まっています。すなわち

私たちは同じ船に乗って同じ目的地に向かって行く仲間なのです。目標に向かって行く今この瞬間にもお互いに私たちの横にいる仲間と見つめ合うことが必要です。そ

《み手のなかで》

愛し合いながら一緒に歩こう!

司祭 池 星熙(チ・ソンヒ)

してお互いに愛を育てて行くのが私たちが持たなければならぬ使命です。

私がいたいた筆文字の内容とは逆に、私たちはもつすでに目的を一緒にしている仲間です

から、一緒に歩む仲間たちと互いに見つめ合い、イエス様が見てくれているように、又彼らがこれ以上傷つけないように、引つ張ったり、押しつたり、慰めたりしながら、目標に向かって一緒に歩かなければならないでしょう。愛は見つめ合うことによつて始まり、その愛が育てて行く次の段階では、同じ目的を持つようになることが必要です。それによつてもっと愛を深めるためです。私たちは常に、今、自分と一緒に歩いている仲間たちと深い愛の心で向かい合わなければなりません。

(聖マルコ教会副牧師)

◇被災地へ心を寄せ：教区フェスティバル2011《祈ろっ、とも》に開催 大畑喜道教区主教就任初のフェスタは、19日(月・休)東北教区から長谷川清純司祭とボランティアの方々を迎え約9百人が参加、大畑主教司式・説教でこの地を憶えて聖餐式を捧げた(献金は約126万5千円)。出店・出展と併行開催した「いっしょに歩こう！プロジェクト」報告会では、加藤博道東北教区主教、事務局の長谷川清純司祭・中村淳司祭から、お話と映像で郡山の幼稚園除染作業など最新報告を伺った。一方、礼拝堂では立教学院聖歌隊とオーガニストギルドによるリクエストコンサートも大盛況。大畑主教のご挨拶と終わりの祈りで散会した。

《今、この教会では》

東北教区・釜石神愛教会

当教会の付属施設には保育園があります。その日園ではお別れ会があり、午後のお昼寝中に大地震に遭いました。園の所在地は海から約5キロありますので、津波の心配はありませんが園児と職員は市内広範囲から通って来ていますので、園児11家族と職員4家族は被災してしまいました。園児と家族、職員は全員無事でしたが、亡くなった人たちのこと、変わってしまった釜石の様子を知る度に、悲しく辛い日々が続きました。3月23日に園を再開し、念願の卒園式は4月2日やつとに行うことができました。普段着のままの式でしたが、心温まる、そして

記憶に残る式となりました。

4月5日、釜石支援のために北海道教区から最初の教役者が来て下さいました。震災の日からずっと心細い日々を送ってきた私たちにとつて、傍にいて一緒に歩いてくれる人の存在はとても心強いものとなりました。一緒にお捧げした今年のイースター礼拝は、いままでで一番待ち遠しい礼拝であったことを覚えていきます。

震災から半年。多くの皆さんがこの釜石のため、当教会と保育園のために毎日ご尽力下さっています。子どもたちと共に私たちも、以前のような元気を取り戻し始めています。

そして、釜石も負けません。頑張っぺし、釜石。(高橋仁美)

《掲載記事転用の場合は事前連絡のこと》

「クローズアップ」⁹⁴

浅草聖ヨハネ教会の一角にある

「カフェ・エクレシア」

2003年東京教区へ派遣された(現・東京教区司祭)8年、時代に即した新しい教会と宣教のあり方を、求め続けてきました。カフェ・エクレシアは、その思いから生み出されたものであります。カフェの準備は、2010年「特別宣教事業研究担当」に命じられた4月から本格的に行われ、2011年6月内装工事終了、同年6月20日営業許可取得、その翌日の21日に看板を掛け、お客さまを迎え入れるまで1年3ヶ月がかかりました。もう、営業を始めてから3ヶ月になります。

カフェ・エクレシアは新しい宣

教モデルを提示することに、その目的があります。より自由な場としてさまざまな文化活動を行いな

ながら、新しいネットワークを築いて行きたいと思っています。現在、韓国語教室(現在初級受講者8名、新しい中級と初級受講希望者8名)を始め、「ネパールの週」(9月5日〜10日)、11月には「フィリピンの週」(7日〜12日)、「映画上映会」(日時未定)、12月には「心に響く語りの夜」(26日、ストーリーテリング)、「黙想会」(日時未定)、そして、他にもセミナーや勉強会などのプログラムが予定されています。

毎週木曜日は定休日。水曜日(15時半から)と日曜日(13時

半から)を除く月・火・金・土は、10時から18時まで開いています。18時以降にカフェを会場として使いたい方々や企画プログラムを行いたい方々を募集しています。なお、ヒマラヤ産のフェアトレード無農薬コーヒー豆(90円/100g)を日本初販売しています。これらの収益はカフェの維持と宣教費として使われます。どうぞ一度カフェにいらしてください。

連絡先 111-0051台

東区蔵前2-7-6 Cafe

Ecclesia Tel 080(3002

4) 6830。E-mail 11

minshee@yahoo.co.jp

カフェ・エクレシア

司祭 李 民洙